
4. 環境共生型居住形態の実現をめざした研究・実践活動（継続2年目）

つくばエコ・ビレッジ研究会
(茨城県つくば市)

つくばエコビレッジ研究会の平成7年度の活動目的は、つくば市におけるエコビレッジの実現をめざし、プロセスを広く知らせ、啓発運動を展開するとともに、若森地区を重点に実施を前提とした活動を進めることです。

当会では、前年度までの〔調査・計画編〕〔コンセンサス編〕に引き続き、〔実施編〕の活動を進めました。

概要は以下の通りです。

若森のため池に着目しながら、エコビレッジの実現を進めました。

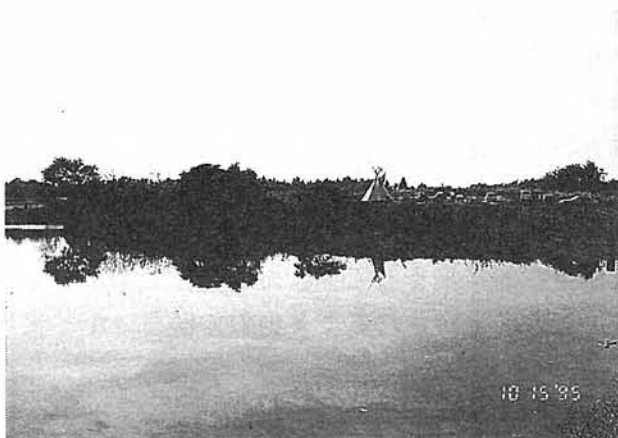
1. 実施計画の立案作業

エコビレッジを具体化するため、実施区域と実現手法の検討を進めました。デザイン作業として、地元有力者やエコビレッジ居住希望者の意見を交えながら住宅敷地模型を製作し、細部の検討を進めました。

2. 実施検討会の開催

基本計画をもとに、地元の有力者や、エコビレッジ居住希望者との懇談を推進し、既存集落の住民ニーズと居住希望者ニーズの調整を図りました。また、エコビレッジ実現のための新しい事業主体の育成や、行政との協議を進めました。

若森の池のほとりで行った体験キャンプ
三角のテントはティピーというインディアン
が使用していたとされる



3. コミュニティ事業

当初計画していたエコビレッジ絵本の作成に代えて、対象地域により入り込んだ作業として、地元子供会との共催によるイベントを開催しました。

4. ワークショップ等の開催

一般市民へより広くエコビレッジの認知を広げるために、観察会、講演会、懇談会などを開催しました。市民農園の事例研究、ホテルの棲息など豊かな生態の確認など、研究活動も進めました。また、関係機関との親睦を深め、次のステップへの下地を固めました。

課題として、連絡がとれない、確認されないなど、地元調整に非常に時間がかかっています。条件を整理しきれず、実施計画の策定にはいたりませんでした。

以上が助成対象事業の概要です。現在、平成8年度の活動が始まりました。4月13日に若森子供会共催イベント「フジバカマを植えよう」を実施いたしました。地元区長の協力でため池脇の土地をお借りし、株や種を植え、今年の秋には花を楽しむことができるようになる予定です。



子供会のイベントで秋の七草フジバカマを植えている様子

交流企画の実質的な事業運営は「エコビレッジ友の会」へ移譲し、つくばエコビレッジ研究会は、引き続き関係各機関・地元調整やデザインの支援などの役割を担っています。

ゆっくりですが着実につくばのエコビレッジは実現に向かっていきます。今後ともご指導、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。